

【本件リリース先】

文部科学記者会、科学記者会、
厚生労働記者会、広島大学関係
報道機関



広島大学



特定非営利活動法人
リカバリー・サポート・センター

令和2年12月2日

記者説明会（12月10日（木）10時30分・霞キャンパス）のご案内

※「Zoom」での参加も可能です

サリン被害者の2/3に身体的症状、1/3に精神的症状が残る
～ 東京地下鉄サリン事件被害者へのアンケート結果 ～

【本研究成果のポイント】

- 本研究は、広島大学大学院医系科学研究科 長尾 正崇 教授、杉山 文 助教、田中 純子 教授らの研究グループが、オウム真理教によるサリン事件被害者への継続的な支援を行っているNPO法人リカバリー・サポート・センター（R・S・C）の協力のもと、東京地下鉄サリン事件から5年後の2000年から2009年までの10年分の検診時アンケートの結果をもとに、事件被害者全体の約12%に相当する747人の身体および精神症状の有訴者割合について解析を行った。
- その結果、東京地下鉄サリン事件では事件後長期経過後も6-7割の被害者が倦怠感や目の症状（かすみ、見えにくさ）を自覚しており、PTSDに関連した症状（PTSR）は35.1%に認められた。
- いずれの症状も経年的な改善傾向が認められなかったことから、被害者に対しては長期的、定期的なケアが必要であることが示唆された。

本研究成果について、下記のとおり記者説明会を開催いたします。ご多忙とは存じますが、是非ご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

記

日時：令和2年12月10日（木）10時30分～11時30分（10時から受付）

場所：広島大学霞キャンパス（広島市南区1-2-3）
基礎・社会医学棟2階 セミナー室1

説明者：広島大学 大学院医系科学研究科（疫学・疾病制御学）教授 田中 純子
<理事・副学長（霞地区・教員人事・広報担当）>

広島大学 大学院医系科学研究科（疫学・疾病制御学）助教 杉山 文

広島大学 大学院医系科学研究科（法医学） 教授 長尾 正崇

NPO法人 リカバリー・サポート・センター 理事長 木村 晋介

（※ 木村理事長はZoomでの参加です）

【概要】

東京地下鉄サリン事件被害者の身体的および精神的症状については、急性期に関する報告が多く、事件後5年を超える長期および慢性期の健康障害については、ほとんど報告はありません。

本研究は、犯罪や事故、災害などで被害を受けた方たちへのケアを行っているNPO法人リカバリー・サポート・センター（R・S・C）との共同研究として、広島大学大学院医系科学研究科 長尾 正崇教授（法医学）、杉山 文助教（疫学・疾病制御学）、田中 純子教授（疫学・疾病制御学）らの研究グループが実施しました。

R・S・Cでは、サリン事件の被害に遭われた方々に対する支援事業の一環として、毎年1回検診を行っています。本研究では、東京地下鉄サリン事件から5年後の2000年から2009年までの10年分の検診時アンケートの結果をもとに、事件被害者全体の約12%に相当する747人の身体症状および精神症状の有訴者割合について解析を行いました。

サリン中毒の症状については、縮瞳、胸部圧迫感、鼻漏、あるいは呼吸困難など急性期の症状が知られている一方で、サリン曝露による長期的な健康影響についてはこれまで十分明らかになっていませんでした。

本研究では、東京地下鉄サリン事件被害者の大規模長期データを解析することによって、事件後長期経過後も被害者の方々にはさまざまな身体症状・精神症状が高率に認められていること、またいずれの自覚症状についても経年的な改善傾向が認められないことを初めて明らかにしました。本研究成果は、被害者の長期及び慢性期の健康障害についての解明の基盤となることが期待されます。

この研究成果は2020年6月23日に国際誌「PLOS ONE」で公開されました。

【背景】

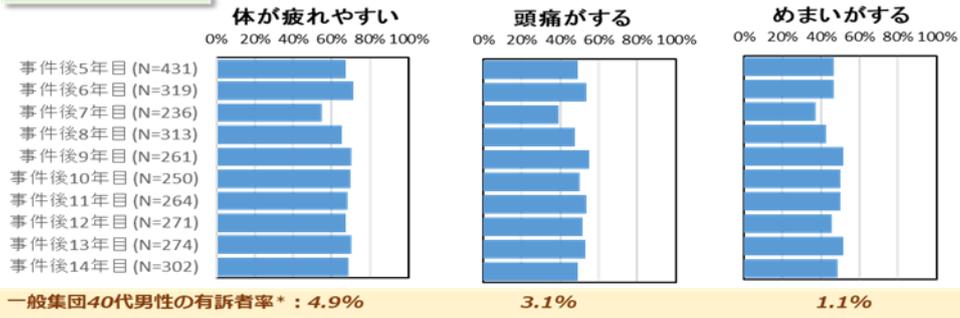
1995年3月20日にオウム真理教が引き起こした東京地下鉄サリン事件では、6,000人以上が被害を受け14人が亡くなっています。毒ガスサリンによる健康障害についての研究の多くは、急性期の障害についてであり、長期的な影響についてはこれまで十分明らかになっていません。

本研究はR・S・Cとの共同研究として、検診時に得られた自覚症状アンケート調査の結果をもとに、被害者の身体的・精神的症状について解析を行いました。

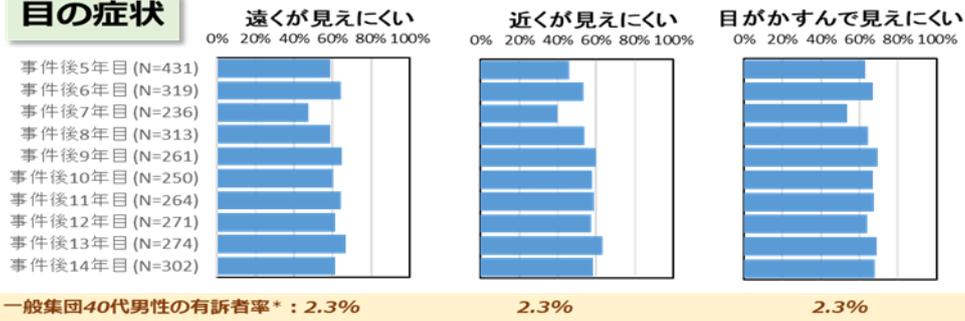
【研究成果の内容】

- 東京地下鉄サリン事件から5年後の2000年から2009年までの10年分の検診時アンケートの結果をもとに、事件被害者全体の約12%に相当する747人（男性412人、女性335人）の身体症状および精神症状の有訴者率について解析を行いました。事件時の平均年齢は男性42.7 ± 12.0歳、女性30.3 ± 10.4歳でした。

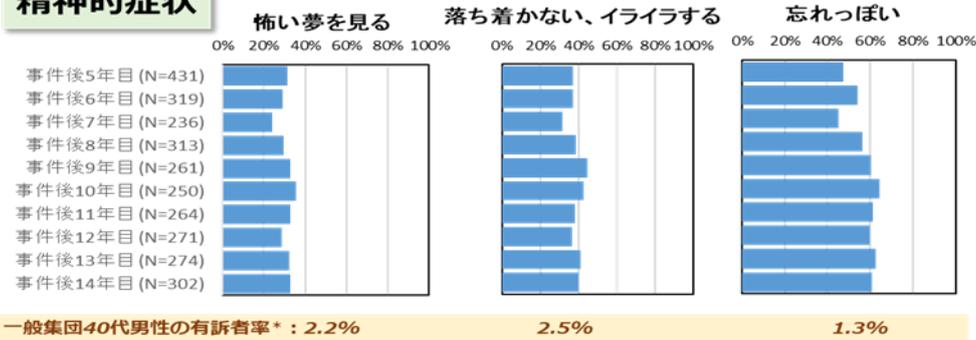
身体的症状



目の症状

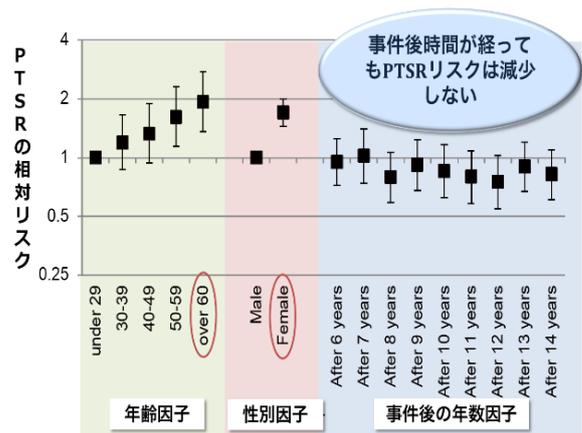
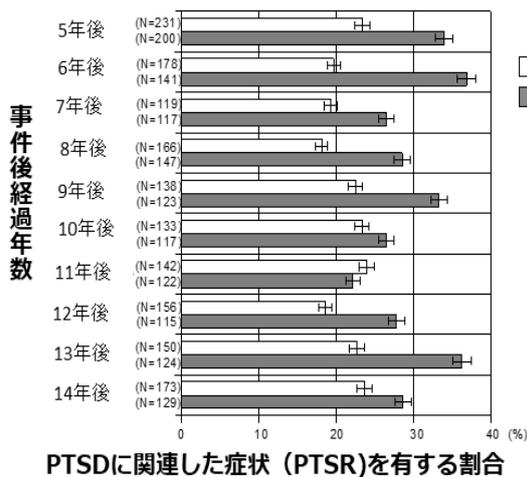


精神的症状



*平成22年国民生活基礎調査（有訴者率）

- 有訴者率は一般集団よりもはるかに高率であり、10年間をとおして低減する傾向を認めませんでした。特に目の症状は6-7割と高率に認められました。
- 心的外傷後ストレス障害 Post-Traumatic Stress Disorder (PTSD) に関連した精神症状 Posttraumatic stress response (PTSR) について、スクリーニング目的などで広く活用されている自記式調査票 IES-R-J [Japanese-language version of the Impact of Event Scale-Revised] (※1) を用いて評価した結果、35.1%にPTSRが認められました。ポアソン回帰モデル (※2) により、事件から時間が経過してもPTSRのリスクが低減しないことが示されました。



【今後の展開】

東京地下鉄サリン事件から 25 年が経過した現在も、R・S・C では事件被害者の方々とその家族の方々の精神的あるいは身体的な後遺症に対する支援（検診事業を含む）を継続されています。本研究では、事件から 5 年後の 2000 年から 2009 年までの 10 年分のデータを解析しましたが、2010 年以降のデータについても解析することによって、被害に遭われた方々の長期及び慢性期の健康障害を引き続き明らかにしていく必要があります。

《論文情報》

論文タイトル

The Tokyo subway sarin attack has long-term effects on survivors: A 10-year study started 5 years after the terrorist incident

著者名

杉山文¹ 松岡俊彦¹ 坂宗和明¹ 秋田智之¹ 牧田亨介² 木村晋介³ 黒岩幸雄³ 長尾正崇² 田中純子¹

所属

¹ 広島大学大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学

² 広島大学大学院医系科学研究科 法医学

³ NPO 法人リカバリー・サポート・センター（R・S・C）

掲載雑誌

PLOS ONE

DOI

10.1371/journal.pone.0234967.

<専門用語>

(※1) 自記式調査票 IES-R-J・・・

IES-R は IES (Horowitz et al, 1979) の改訂版として、米国の Weiss らが開発した心的外傷性ストレス症状を測定するための自記式質問紙です。IES-R 日本語版 (IES-R-J) は集団災害から個別被害まで、幅広い種類の心的外傷体験曝露者の症状測定が可能であり、横断調査、症状経過観察、スクリーニング目的などに、すでに広く使用されています。

(※2) ポアソン回帰モデル・・・

ポアソン回帰モデルは、統計学的手法のひとつであり、今回は PTSR の有病頻度に対して、性別、年齢、事件後の年数がそれぞれどのように関連しているのかを検討しました。

【お問い合わせ先】

(研究に関すること)

広島大学 大学院医系科学研究科 (法医学)

教授 長尾 正崇

TEL : 082-257-5171

E-mail : nagao*hiroshima-u.ac.jp

広島大学 大学院医系科学研究科 (疫学・疾病制御学)

教授 田中 純子

TEL : 082-257-5160

E-mail : jun-tanaka@hiroshima-u.ac.jp

(報道に関すること)

広島大学 財務・総務室広報部広報グループ

TEL : 082-424-3701

E-mail : koho*office.hiroshima-u.ac.jp

(注 : *は半角@に置き換えてください)

発信枚数 : A4版 6枚 (本票含む)

(別紙)

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学財務・総務室広報部 広報グループ 行
(E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp)

記者説明会（12月10日（木）10時30分・霞キャンパス）のご案内

※「ZOOM」での参加も可能です

サリン被害者の2/3に身体的症状、1/3に精神的症状が残る
～ 東京地下鉄サリン事件被害者へのアンケート結果 ～

日 時：令和2年12月10日（木）10時30分 ～ 11時30分

場 所：広島大学霞キャンパス

基礎・社会医学棟 2階 セミナー室 1（広島市南区霞1-2-3）

ご出席（会場で参加）

ご出席（ZOOMで参加 ※）

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____（計 名）

電話番号 _____

※ ZOOMで参加希望の方は、事前に招待メールをお送りしますので、メールアドレスをご連絡願います。 E-mail アドレス（ _____ ）

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、12月9日（水）10時までにご連絡願います。

